



ひと、暮らし、みらいのために

厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare

# 厚生労働省における 生産性向上

平成29年 7 月

厚生労働副大臣 橋本 岳

# 生産性とは

- ・ 売上げ
- ・ 付加価値額 など

$$\text{生産性} = \frac{\text{得られた成果}}{\text{投入した資源}} = \frac{\text{アウトプット}}{\text{インプット}}$$

- ・ 資金
- ・ 時間
- ・ 労働者数 など

# 厚生労働省職員の生産性は高い

主要業所管省庁と比較して下記すべて最大値  
(比較対象：農林水産省、経済産業省、国土交通省)

- 本省職員 1 人あたり国会答弁数
- 本省職員 1 人あたり委員会審議時間数
- 本省職員 1 人あたり質問主意書件数
- 本省職員 1 人あたり法案提出数
- 本省職員 1 人あたり予算額
- 本省職員 1 人あたり所管独立行政法人数

(出所：『厚生労働省業務改革・働き方改革加速化チーム中間とりまとめ』,p.6)

# ただし、国民の目線から見た 生産性にも留意が必要

$$\text{国民視点の生産性} = \frac{\text{国民の幸福向上}}{\text{予算額}} = ???$$

政府予算の1/3を預かる  
厚生労働省

この生産性を向上させることが最終目標です

# 成長とは「生産性が上がる」こと

① 今まで何時間かかっても  
できなかったことが  
できるようになった

② 昨日まで何時間も  
かかっていたことが  
1時間でできるようになった

④ 生み出せた余裕時間で  
今はまだできないことに  
チャレンジを始める！

③ 同じ1時間で昨日より  
はるかに高い成果が  
出せるようになった

定時退庁して育児や趣味に  
チャレンジするのもGOOD

# 管理職が目指すべき姿

生産性向上を意識する管理職

||

職員・組織の成長を促し

サポートする管理職

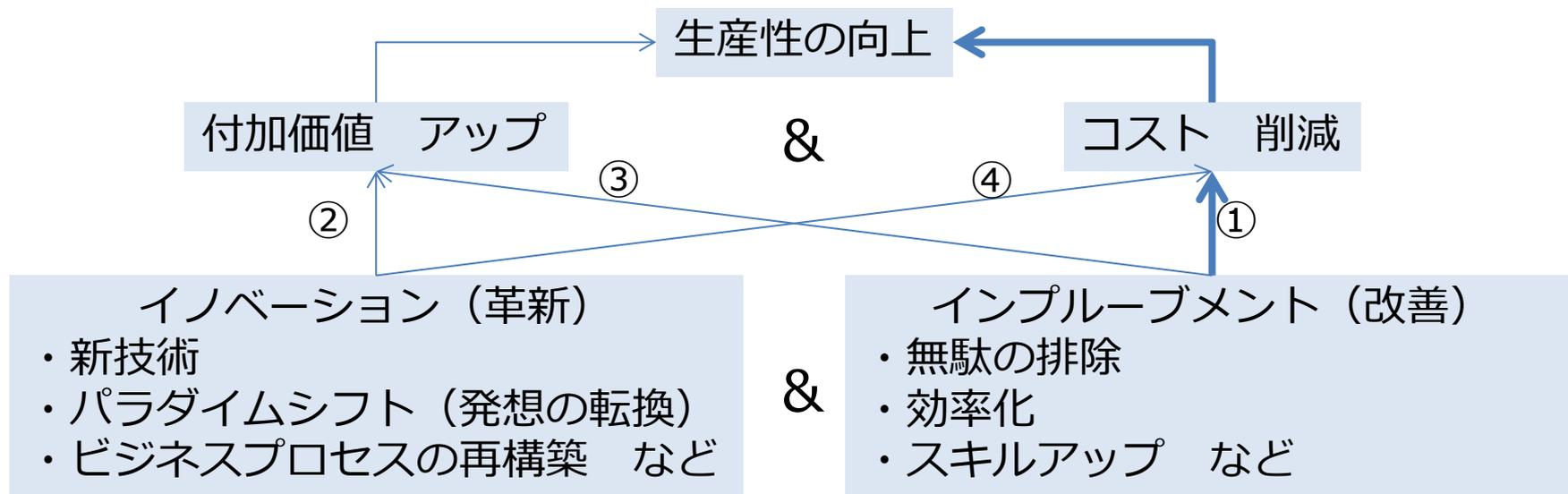
# 職員が目指すべき姿

生産性向上を意識する職員

||

**自分の成長や能力開発を  
目指し続ける職員**

# 生産性向上の4つのアプローチ



➤ → 日本で生産性向上といえばこの部分を指すことが多い

- ① 改善による投入資源の削減
- ② 革新による投入資源の削減
- ③ 改善による付加価値額の増加
- ④ 革新による付加価値額の増加

# まずは改善のために(1/4)

以下を意識してみてください（まだの方は）

- プロセスを気にする

- ただ「法律を成立させる」ではなく、「スムーズに法律を成立させる」ことを意識

- 所要時間を気にする

- 「この資料作るのに何分かかった？」
- 家で放置されているキッチンタイマーの利用

# まずは改善のために(2/4)

- つまづき、ミス、手戻りを減らす
  - To err is human.
  - 「作成時間」と「見直し時間」を計算に入れる
  - 今10分かけるだけで、後日1日棒に振ることを防げるのならば、今10分かけることは正しい選択
- 情報収集は早めにし、先手を打つ
  - 関係者の意見やそれに対する対応方針は早め早めに整理・共有する。先憂後楽

# まずは改善のために(3/4)

- チームで仕事をする
  - 「彼がいないと進まない」状況を作らない
  - 情報の共有と、皆でひとつの仕事をする意識
- 良くない情報ほど早めに上司に相談
  - 火事は最初の5分が勝負
  - 年金機構情報漏洩事案の教訓を再確認する
  - 上司は、良くない情報は率先して聞く（大事！）

# まずは改善のために(4/4)

- 念のため仕事をなくす

- 世の中には「**しなければならない仕事**」と、「**しなくてよい仕事**」しか存在しない。  
(= 「した方がよい仕事」はムダ)
- 優先度づけと割り切りの問題

# 革新しよう！

各部局において、積極的に取り組みましょう

- 執務室のペーパーレス化&フリーアドレス化
- テレワーク・モバイルワーク
- 業務システム刷新

# 各部局において

- ぜひ**ご自分の言葉で**、みなさんに思いを伝えてください。
- **風通しのよい職場づくり**の第一歩です。
- このスライドは、省内において自由にご利用いただいても構いません。ご活用ください。